

I 背景・目的等

東浦町公共施設再配置計画に基づき、森岡地区を地区拠点形成のモデル事業として位置付け、地区施設の複合化・集約化により、多世代交流や多機能化による利便性向上や合理性・効率性の最大化、コスト縮減等を図るため、2025年10月に森岡地区拠点施設基本構想を策定した。その内容を受け、森岡地区拠点施設基本計画では、施設整備に向け、施設計画、管理運営計画、事業手法等について検討する。

II 諸室構成計画

II-1.森岡地区拠点施設に係る複合対象施設概要

施設名	建築年	延床面積 (㎡)	施設名	建築年	延床面積 (㎡)
森岡分団詰所	1981	99.94	森岡コミュニティセンター	1980	788.07
北部防災倉庫	1987	269.78	森岡老人憩の家	1987	171.69
森岡保育園	1971	617.49	北部ふれあいセンター	1994	721.38
なかよし学園	2011	323.54	森岡小学校	1963	6,885.50
森岡西保育園	1975	1,337.30	防災倉庫等	—	48.00
森岡児童館	1997	329.02	計		11,591.71

II-2.導入機能及び必要となるスペース

機能 スペース	教育	保育	地域活動 イベント	運動	交流 連携	支援	消防 防災	管理
小学校 (普通教室等)	○		○		○	○	○	○
学び・食 (特別教室等)	○		○		○		○	
運動	○		○	○	○		○	
地域 集い	○		○	○	○		○	
子ども・支援	○	○	○		○	○	○	
管理								○
消防・防災							○	
保育園		○					○	○

II-3.主要諸室及び規模の設定

諸室	面積	諸室・面積の考え方
①小学校(普通教室等)のスペース(4,215㎡)		
①-1普通教室 (特別支援学級含む)	1,344㎡	普通教室18学級 特別支援学級6学級
①-2ラーニングスペース (オープンスペース)	384㎡	新しい時代の学びを見据えた個別化・個性化教育の推進に対応するため、より様々な人数や形態に応じた多様な学びができるよう、各学年に普通教室と一体的に活用可能なフレキシブルな空間
①-3校内教育支援センター	14㎡	自分のクラスには入りづらい児童が、学校内の落ち着いた空間で、自分のペースに応じて学習・生活できるように設置される場所
①-4相談室・カウンセラー室	15㎡	児童生徒の心の悩み・不安・ストレス等についてスクールカウンセラーが相談・カウンセリング等を行うための場所
①-5通級指導教室	20㎡	通常の学級に在籍し、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする児童生徒に対して特別な指導を行う場所
①-6職員室	256㎡	教職員の事務を行う場所
①-7事務室	24㎡	共同学校事務室(森岡・緒川・緒川新田地区の拠点)として県職員の事務を行う場所
①-8管理諸室	408㎡	職員室・事務室以外の管理諸室機能 配膳室、放送室、校長室(応接機能含む)、保健室、印刷室、教材室、職員用更衣室、職員用便所
①-9児童用更衣室	64㎡	児童が使用する更衣スペース
①共用部	1,686㎡	スペース全体面積の約40%で設定

諸室	面積	諸室・面積の考え方
②学び・食(特別教室等)のスペース(1,284㎡)		
②-1特別教室	771㎡	特別教室機能 図書館・図書準備室、理科室・理科室準備室、音楽室・音楽室準備室・音楽の広場、図工室、家庭科室
②-2多目的ホール	192㎡	新しい時代の学びを見据えた個別化・個性化教育を推進するため、学年集会及び地域コミュニティ行事、児童のアクティブな活動等を行うことができるフレキシブルな空間
②共用部	321㎡	スペース全体面積の約25%で設定
③運動のスペース(952㎡)		
③-1体育館	904㎡	小学校の体育授業や式典、地域の運動(バレー、バドミントン、バスケ等)、放課後子ども教室(アフタースクール)、児童のアクティブな活動、選挙投票所等の場
③-2プール	0㎡	水泳授業の民間委託により、施設内には設けない
③-3屋外体育倉庫	48㎡	グラウンド等の屋外活動に係る器具等の保管場所

④地域のスペース(253㎡) ※フレキシブルな空間としての利用を想定しているため、諸室分けは仮設定		
④-1多目的室1(仮)	100㎡	ヨガ、サークル等の軽運動や、一般教室等の活動、児童のアクティブな活動等、フレキシブルな場所として利用
④-2多目的室2(仮)	55㎡	一般教室、老人クラブ等の活動に加え、学校会議や消防団会議、児童のアクティブな活動等、フレキシブルな場所として利用
④-3多目的室3(仮)	35㎡	
④共用部	63㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑤集いのスペース(133㎡)		
⑤-1集いのスペース	100㎡	エントランス機能や施設利用者の滞留スペースとしてだけでなく、地域学校協働・ボランティアの場やふくし何でも相談を含む交流・休憩・展示・発表・活動等、様々なアクティビティが可能な場所
⑤共用部	33㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑥子ども・支援のスペース(691㎡)		
⑥-1児童クラブ	200㎡	児童クラブ機能(児童の静かな遊び場や備品・荷物置場等)
⑥-2児童館	50㎡	児童館機能(児童の静かな遊び場や備品・荷物置場等)
⑥-3なかよし学園	268㎡	障害児通所支援の場所
⑥共用部	173㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑦管理のスペース(293㎡)		
⑦-1事務室等	63㎡	児童館・児童クラブ、コミュニティセンター、ふれあいセンターに係る事務室等の管理機能
⑦-2倉庫	157㎡	平常時に使用する森岡地区拠点施設全体の倉庫
⑦共用部	73㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑧消防・防災のスペース(300㎡)		
⑧-1防災倉庫	200㎡	緊急時に使用する防災倉庫
⑧-2森岡分団詰所	100㎡	消防活動のための分団の詰所
⑨保育園のスペース(0㎡(民設民営))		
⑨保育園	—	民設民営の保育所等

諸室	面積	諸室・面積の考え方
⑩子ども・支援のスペース(691㎡)		
⑩-1児童クラブ	200㎡	児童クラブ機能(児童の静かな遊び場や備品・荷物置場等)
⑩-2児童館	50㎡	児童館機能(児童の静かな遊び場や備品・荷物置場等)
⑩-3なかよし学園	268㎡	障害児通所支援の場所
⑩共用部	173㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑪管理のスペース(293㎡)		
⑪-1事務室等	63㎡	児童館・児童クラブ、コミュニティセンター、ふれあいセンターに係る事務室等の管理機能
⑪-2倉庫	157㎡	平常時に使用する森岡地区拠点施設全体の倉庫
⑪共用部	73㎡	スペース全体面積の約25%で設定
⑫消防・防災のスペース(300㎡)		
⑫-1防災倉庫	200㎡	緊急時に使用する防災倉庫
⑫-2森岡分団詰所	100㎡	消防活動のための分団の詰所
⑬保育園のスペース(0㎡(民設民営))		
⑬保育園	—	民設民営の保育所等

II-4.面積縮減効果

総延床面積	8,121㎡
既存施設面積合計	11,592㎡
面積縮減効果	▲3,471㎡(▲30%)

II-5.屋外空間の設定

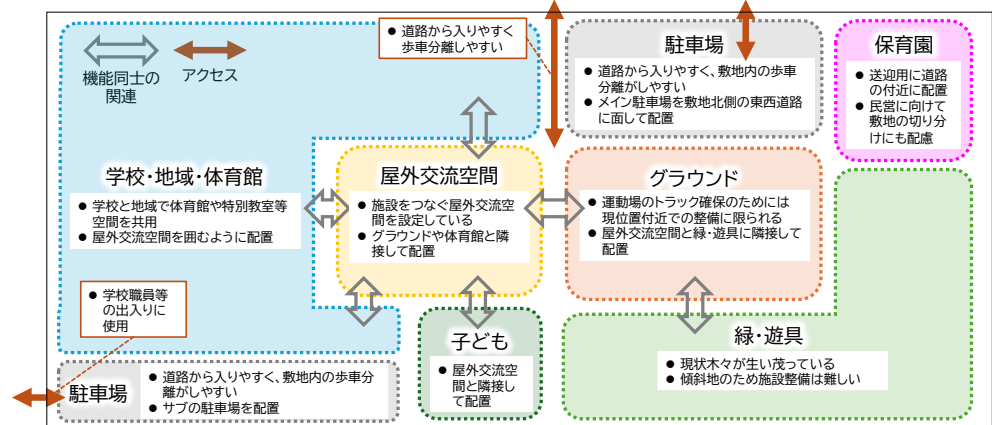
屋外空間	概要
運動のスペース	
グラウンド	小学校授業に必要な200mトラックを配置できる広さを確保した、屋外運動施設
遊具コーナー	子どもの健全な育成を図るために必要な遊具を配置した場所
集いのスペース	
交流広場	屋外空間における交流の拠点として、誰もが利用できる交流広場
花壇	小学校教育や地域活動等で使用する花壇
その他緑地帯等	休憩、リフレッシュ、学習等に活用できる、自然に親しむ場所
子ども・支援のスペース	
園庭等	なかよし学園に必要となる園庭等の屋外空間
保育園のスペース	
園庭等	保育園に必要となる園庭等の屋外空間
その他	
駐車場	利用者用駐車場:112台、職員駐車場:88台、消防車両駐車場:2台

III 配置・動線計画

III-1.前提条件の整理

- グラウンドの配置:200mトラックの配置を踏まえ、造成や日照等を考慮し、現在の位置から大きな変更はせず、敷地南東側に配置する。
- 保育園の民設民営にかかる敷地確保:民設民営とすることを予定しており、保育園事業者の柔軟な事業運営の実現に向けて、本事業とは異なる枠組みで事業化することが想定されるため、対象敷地内において本事業用地と区分された保育園用地を確保する必要がある。なお、送迎等に供される利用者用駐車場は、森岡地区拠点施設全体の駐車場を活用することを想定しつつ、園舎、園庭及び職員用駐車場等は保育園用地として別途敷地を確保する。

III-2.各スペースの配置関係性



III-3.敷地ゾーニング案



Ⅳ 建築計画

①長寿命化の考え方

総合管理計画に示されている長寿命化の実施方針を踏まえ、ライフサイクルコスト削減を図るために、計画的な修繕による維持管理を前提とする。

あわせて、VUCA(将来の予測不可能)の時代における将来的な児童数や利用者数の減少、利用ニーズの変化等を踏まえ、多様性・柔軟性・可変性のある空間の確保に加え、余裕教室の活用等、将来的な用途転用や減築等にも配慮する。

②環境負荷低減の考え方

- エネルギー消費量の削減と環境負荷低減の観点から、可能な範囲でZEB化を目指し、省エネルギー機器の導入や積極的な再生可能エネルギーの導入を推進する。
- 難燃化対策等による災害時の安全性に配慮しつつ、二酸化炭素の貯蔵や排出抑制にもつながる木質利用を推進する。

③防災機能の考え方

- 指定避難所としての役割を担うことから、「官庁施設の総合耐震診断・改修基準」における耐震安全性の目標における構造体Ⅱ類、建築非構造部材A類、建築設備乙類相当の耐震安全性を確保し、地震発生後においても避難所としての機能を継続できる性能の確保を基本とする。
- 森岡地区拠点施設全体を避難所として活用することを想定し、日常的に利用する教室や共用空間等が災害時には避難生活の場として機能するよう「フェーズフリー」の考え方を、施設全体に取り入れる。

④ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザインの考え方

- 高齢者や障害のある人をはじめ、子ども、妊産婦等、多様な利用者が安全かつ円滑に利用できるよう、バリアフリーを基本とした物理的障壁の解消を図るとともに、ユニバーサルデザイン及びインクルーシブデザインの視点を取り入れ、誰もが安心して利用・参加できる公共空間を形成する。

⑤周辺の住環境への配慮

- 敷地周辺の住環境への影響を考慮し、日照、騒音等に配慮する。

⑥眺望を活かした配置

- 本敷地の周辺には、西側はブドウ畑、南側は田・畑と豊かな自然環境を有しており、東浦町景観計画(平成28年4月)において作成された景観資源図では、現森岡小学校が眺望点として示されている。以上を踏まえ、周辺眺望を敷地の重要な資源の一つとして捉え、周辺の自然を感じられる空間構成を検討する必要がある。

⑦個別化・個性化教育の推進への配慮

- 個別化・個性化教育の推進に伴う多様な空間利用を想定し、家具配置と合わせてフレキシブル(柔軟性・可変性)のある多様な空間づくりを目指す。
- また、快適な学びの拠点となるよう、教室配置や壁配置、形状、素材の工夫等により、音環境等に配慮する。

⑧セキュリティへの配慮

- 交流の拠点と防災拠点の両立に向け、共創空間の実現のしやすさ(地域住民の利用しやすさ)のための地域に開いた空間構成とセキュリティ(防犯性)の確保の双方へ配慮する。

Ⅴ 概算事業費

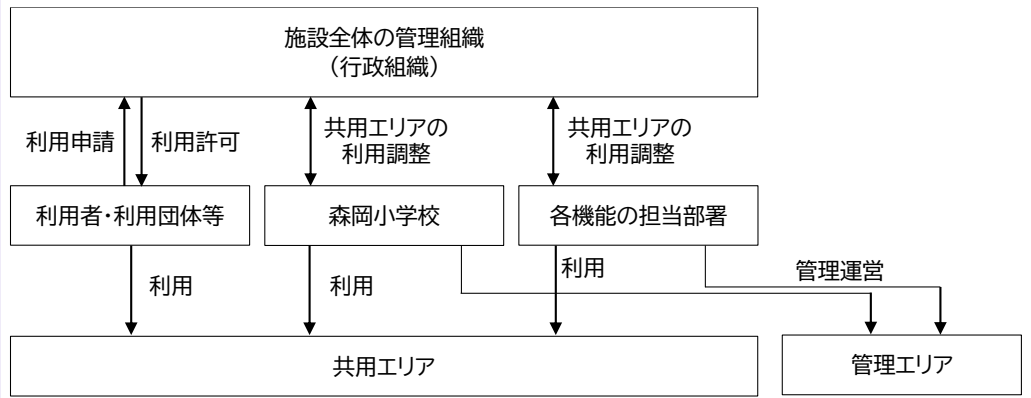
今後作成
・概算工事費
・概算管理運営費
・財政縮減効果

Ⅵ 管理運営計画

Ⅵ-1.管理運営の考え方

新施設は、一つの部屋を複数のアクティビティの場として共用するため、新たな管理運営体制を検討することが望ましい。また、セキュリティの観点から、地域と学校が共用する「共用エリア」、施設関係者が使用する「管理エリア」に区分して、管理運営を行うことを検討する。

【管理運営体制イメージ】



Ⅵ-2.管理運営計画

各スペース・主要諸室の管理運営に係るエリア区分について以下のように設定した。共用エリアの主要諸室については、学校教育活動と地域利用の両立を図るため、施設全体の管理組織のもと管理・運営することを想定する。既存施設での曜日ごと・時間帯ごとの利用実態を踏まえ、想定される使用方法を整理した。

エリア区分	スペース	主要諸室
共用エリア	小学校(普通教室等)のスペース	・普通教室・特別支援教室 ・ラーニングスペース(オープンスペース) ・校内教育支援センター・相談室・カウンセラー室・通級指導教室
	学び・食(特別教室等)のスペース	・特別教室・多目的ホール
	運動のスペース	・体育館
	地域のスペース	・多目的室
	集いのスペース	・エントランスホール
	子ども・支援のスペース	・児童クラブ・児童館・なかよし学園
管理エリア	小学校(普通教室等)のスペース	・職員室・事務室 ・管理諸室
	管理のスペース	・事務室等・倉庫
	消防・防災のスペース	・森岡分団詰所・防災倉庫

Ⅶ 事業手法の検討

Ⅶ-1.事業手法の整理

一般的な官民連携手法概要を作成

Ⅶ-2.民間事業者ヒアリング

ヒアリングを受けて作成

Ⅶ-3.事業手法及び事業スケジュール

ヒアリングを受けて想定される手法及びその事業スケジュールを作成

Ⅷ 今後の取組み

財源や跡地活用も含めて今後の設計に向けた配慮事項を作成